

1

問題のページへ

(1)  $x^2 - px - q = 0$  が実数解  $\alpha, \beta$  をもつので,  $\alpha + \beta = p, \alpha\beta = -q$  となる。

このとき,  $A = \begin{pmatrix} q & p \\ pq & p^2 + q \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\alpha\beta & \alpha + \beta \\ -\alpha^2\beta - \alpha\beta^2 & \alpha^2 + \alpha\beta + \beta^2 \end{pmatrix}$  とすると,

$$(a_0, b_0) = (0, 0) \text{ より, } \begin{pmatrix} a_1 \\ b_1 \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix} a_2 \\ b_2 \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha^2 \\ \alpha^3 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha^2 + 1 \\ \alpha^3 + \alpha \end{pmatrix} = (\alpha^2 + 1) \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix} a_3 \\ b_3 \end{pmatrix} = A(\alpha^2 + 1) \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} = (\alpha^2 + 1) \begin{pmatrix} \alpha^2 \\ \alpha^3 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha^4 + \alpha^2 + 1 \\ \alpha^5 + \alpha^3 + \alpha \end{pmatrix}$$

よって,  $P_2(\alpha^2 + 1, \alpha^3 + \alpha), P_3(\alpha^4 + \alpha^2 + 1, \alpha^5 + \alpha^3 + \alpha)$

(2)  $P_n(a_n, b_n)$  とおくと, (1)より,  $a_n = \alpha^{2(n-1)} + \alpha^{2(n-2)} + \dots + \alpha^2 + 1, b_n = \alpha a_n$  と推測できるので, これを数学的帰納法で証明する。

(i)  $n=1$  のとき  $a_1 = 1, b_1 = \alpha$  となり, 成立する。

(ii)  $n=k$  のとき  $a_k = \alpha^{2(k-1)} + \alpha^{2(k-2)} + \dots + \alpha^2 + 1, b_k = \alpha a_k$  と仮定する。

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} a_{k+1} \\ b_{k+1} \end{pmatrix} &= A a_k \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} = a_k \begin{pmatrix} \alpha^2 \\ \alpha^3 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ \alpha \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha^2 a_k + 1 \\ \alpha^3 a_k + \alpha \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \alpha^{2k} + \alpha^{2(k-1)} + \dots + \alpha^2 + 1 \\ \alpha(\alpha^{2k} + \alpha^{2(k-1)} + \dots + \alpha^2 + 1) \end{pmatrix} \end{aligned}$$

よって,  $n=k+1$  のときも成立する。

(i)(ii)より,  $n \geq 1$  で,  $a_n = \alpha^{2(n-1)} + \alpha^{2(n-2)} + \dots + \alpha^2 + 1, b_n = \alpha a_n$  となる。

以上より,  $\alpha^2 \neq 1$  のとき,  $a_n = \frac{1 - \alpha^{2n}}{1 - \alpha^2}$  より  $P_n\left(\frac{1 - \alpha^{2n}}{1 - \alpha^2}, \frac{\alpha(1 - \alpha^{2n})}{1 - \alpha^2}\right), \alpha = 1$  のとき,  $a_n = n$  より  $P_n(n, n), \alpha = -1$  のとき,  $a_n = n$  より  $P_n(n, -n)$  となる。

なお,  $n=0$  のときは,  $P_0(0, 0)$  である。

(3)  $n \geq 1$  のとき,  $a_n = \alpha^{2(n-1)} + \alpha^{2(n-2)} + \dots + \alpha^2 + 1$  が収束する条件は,  $|\alpha^2| < 1$  すなわち  $-1 < \alpha < 1$  であり, このとき,

$$a = \lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \frac{1}{1 - \alpha^2}, \quad b = \lim_{n \rightarrow \infty} b_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \alpha a_n = \frac{\alpha}{1 - \alpha^2}$$

よって, 収束する点  $P(a, b)$  の座標は,  $P\left(\frac{1}{1 - \alpha^2}, \frac{\alpha}{1 - \alpha^2}\right)$  である。

### [ 解 説 ]

行列  $A$  を  $\alpha, \beta$  で表すと複雑ですが, 点  $P_1, P_2, P_3$  と求めていけば,  $P_n$  が推測できるようになっています。

2

問題のページへ

点 R が (0, 1) のとき,  $ST = 0$  であり,  $y$  軸に関する対称性から, 点 R が第 1 象限にあると考えると一般性を失わない。

さて,  $t > 0$  として,  $R(t, \sqrt{1-t^2})$  とおくと,  $T(t, d)$  となり,

$$\sqrt{1-t^2} > d, 1-t^2 > d^2, 0 < t < \sqrt{1-d^2}$$

このとき, 直線  $OR : y = \frac{\sqrt{1-t^2}}{t}x$  と直線  $l : y = d$  の交

点は,

$$\frac{\sqrt{1-t^2}}{t}x = d, x = \frac{dt}{\sqrt{1-t^2}}$$

よって,  $S(\frac{dt}{\sqrt{1-t^2}}, d)$  となり,  $ST = t - \frac{dt}{\sqrt{1-t^2}}$  である。

ここで,  $f(t) = t - \frac{dt}{\sqrt{1-t^2}}$  とおくと,

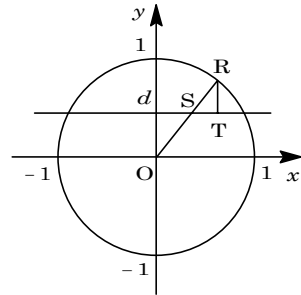
$$f'(t) = 1 - d \cdot \frac{1-t^2+t^2}{(1-t^2)\sqrt{1-t^2}} = \frac{(1-t^2)\sqrt{1-t^2} - d}{(1-t^2)\sqrt{1-t^2}}$$

$f'(t) = 0$  とすると,  $(1-t^2)\sqrt{1-t^2} = d$ ,  $(1-t^2)^3 = d^2$  より,

$$1-t^2 = d^{\frac{2}{3}}, t = \sqrt{1-d^{\frac{2}{3}}}$$

$0 < d < 1$  なので, 右の増減表より,  
 $t = \sqrt{1-d^{\frac{2}{3}}}$  のとき  $f(t) = ST$  は最大となり, その最大値は,

$$\sqrt{1-d^{\frac{2}{3}}} - \frac{d\sqrt{1-d^{\frac{2}{3}}}}{d^{\frac{1}{3}}} = \sqrt{1-d^{\frac{2}{3}}} - d^{\frac{2}{3}}\sqrt{1-d^{\frac{2}{3}}} = (1-d^{\frac{2}{3}})\sqrt{1-d^{\frac{2}{3}}}$$



$t$	0	...	$\sqrt{1-d^{\frac{2}{3}}}$	...	$\sqrt{1-d^2}$
$f'(t)$		+	0	-	
$f(t)$		↗		↘	

[ 解 説 ]

点 R の  $x$  座標を普通に設定しましたが, 微分の計算は繁雑ではありませんでした。最初は, R を媒介変数表示した方がよいのかどうかと迷っていたのですが。

3

問題のページへ

- (1) サイコロを 1 回投げて 3 の倍数が出る確率は  $\frac{1}{3}$  なので,  $n$  回投げて 3 の倍数が  $k$  回出る確率  $P_n(k)$  は,

$$P_n(k) = {}_n C_k \left(\frac{1}{3}\right)^k \left(\frac{2}{3}\right)^{n-k} = \frac{n!}{k!(n-k)!} \cdot \frac{2^{n-k}}{3^n}$$

$$\text{よって, } \frac{P_n(k+1)}{P_n(k)} = \frac{n!}{(k+1)!(n-k-1)!} \cdot \frac{2^{n-k-1}}{3^n} \cdot \frac{k!(n-k)!}{n!} \cdot \frac{3^n}{2^{n-k}} = \frac{n-k}{2(k+1)}$$

- (2)  $\frac{P_n(k+1)}{P_n(k)} = \frac{n-k}{2(k+1)} > 1$  とすると,  $n-k > 2k+2$  より,  $k < \frac{n-2}{3}$

$$\text{これより, } \frac{n-k}{2(k+1)} = 1 \text{ とすると } k = \frac{n-2}{3}, \frac{n-k}{2(k+1)} < 1 \text{ とすると } k > \frac{n-2}{3}$$

- (i)  $n-2$  が 3 の倍数のとき

$m$  を 0 以上の整数として,  $n-2 = 3m$  とすると,  $k < m$  のとき  $P_n(k) < P_n(k+1)$ ,  $k = m$  のとき  $P_n(k) = P_n(k+1)$ ,  $k > m$  のとき  $P_n(k) > P_n(k+1)$  となる。

よって,  $k = m$ ,  $m+1$  のとき  $P_n(k)$  は最大となるので,

$$N(n) = m+1 = \frac{n-2}{3} + 1 = \frac{n+1}{3}, \quad \frac{N(n)}{n} = \frac{1}{3} + \frac{1}{3n} > \frac{1}{3}$$

- (ii)  $n-2$  が 3 の倍数でないとき

$m$  を 0 以上の整数として,  $n-2 = 3m+1$  または  $n-2 = 3m+2$  とすると,  $k = m$  のとき  $P_n(k) < P_n(k+1)$ ,  $k > m$  のとき  $P_n(k) > P_n(k+1)$  となる。

よって, いずれの場合も,  $k = m+1$  のとき  $P_n(k)$  は最大となるので,

$$n-2 = 3m+1 \text{ のとき, } N(n) = m+1 = \frac{n-3}{3} + 1 = \frac{n}{3}, \quad \frac{N(n)}{n} = \frac{1}{3}$$

$$n-2 = 3m+2 \text{ のとき, } N(n) = m+1 = \frac{n-4}{3} + 1 = \frac{n-1}{3}, \quad \frac{N(n)}{n} = \frac{1}{3} - \frac{1}{3n} < \frac{1}{3}$$

- (i)(ii)より,  $\frac{N(n)}{n}$  が最小になる場合は,  $n-2 = 3m+2$  の場合で  $n$  が最小のとき,

すなわち  $n = 4$  のときである。このとき,  $\frac{N(n)}{n} = \frac{1}{3} - \frac{1}{12} = \frac{1}{4}$  となる。

- (3) (2)より,  $n-2 = 3m$  のとき  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{N(n)}{n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{3} + \frac{1}{3n}\right) = \frac{1}{3}$ ,  $n-2 = 3m+1$  のとき

$$\frac{N(n)}{n} = \frac{1}{3}, \quad n-2 = 3m+2 \text{ のとき } \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{N(n)}{n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{3} - \frac{1}{3n}\right) = \frac{1}{3} \text{ である。}$$

以上より,  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{N(n)}{n} = \frac{1}{3}$  である。

### [ 解 説 ]

確率の最大値についての頻出問題ですが, (2)の場合分けがちょっと面倒です。

4a

問題のページへ

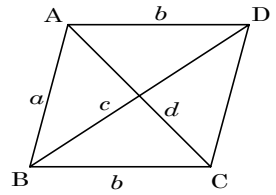
- (1)  $\angle BAD = \theta$  とおくと,  $\angle ABC = 180^\circ - \theta$  となり, ABD, ABC にそれぞれ余弦定理を適用すると,

$$c^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos \theta \dots\dots\dots$$

$$d^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos(180^\circ - \theta)$$

$$= a^2 + b^2 + 2ab \cos \theta \dots\dots\dots$$

$$\text{より, } c^2 + d^2 = 2a^2 + 2b^2, \quad a^2 + b^2 = \frac{1}{2}(c^2 + d^2)$$



- (2)  $0 < a < b < c$  かつ  $a^2 + b^2 > c^2$  より, 3 辺の長さが  $a, b, c$  の三角形は鋭角三角形であるので,

$$a^2 + b^2 > c^2, \quad b^2 + c^2 > a^2, \quad c^2 + a^2 > b^2 \dots\dots\dots$$

より,  $l > 0, m > 0, n > 0$  として,  $l^2, m^2, n^2$  を次式で定義することができる。

$$l^2 = \frac{1}{2}(a^2 + b^2 - c^2), \quad m^2 = \frac{1}{2}(a^2 - b^2 + c^2), \quad n^2 = \frac{1}{2}(-a^2 + b^2 + c^2)$$

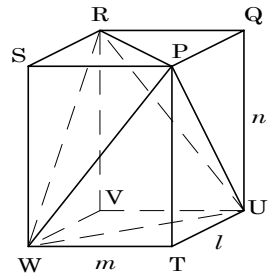
$$a^2, b^2, c^2 \text{ について解くと, } a^2 = l^2 + m^2, \quad b^2 = l^2 + n^2, \quad c^2 = m^2 + n^2$$

$$a = \sqrt{l^2 + m^2}, \quad b = \sqrt{l^2 + n^2}, \quad c = \sqrt{m^2 + n^2}$$

さて, 直方体 PQRS-TUVW において,  $PQ = l$ ,  $PS = m$ ,  $PT = n$  とすると,

$$PR = WU = a, \quad PU = RW = b, \quad PW = RU = c$$

よって, 各面の三角形の辺の長さを  $a, b, c$  とする四面体を作ることができる。



[ 解 説 ]

(2)の問題を見て「直方体に埋め込まれた等面四面体」ということに気持ちが集約してしまい, (1)の利用という考えは吹っ飛んでしまいました。なお, 上の解は, 1999年の京大理系(後期)第4問の解を貼り付けたものです。図は作り直しましたが。

4b

問題のページへ

- (1) グラフより,  $f(-x) = -f(x)$  なので,  $-f'(-x) = -f'(x)$ ,  $f'(-x) = f'(x)$  によって,  $y = f'(x)$  のグラフは  $y$  軸に関して対称となり, 以下,  $x > 0$  で考える。  
さて,  $f'(x)$  は点  $(x, f(x))$  における  $y = f(x)$  の接線の傾きを表すので,  $k$  を 1

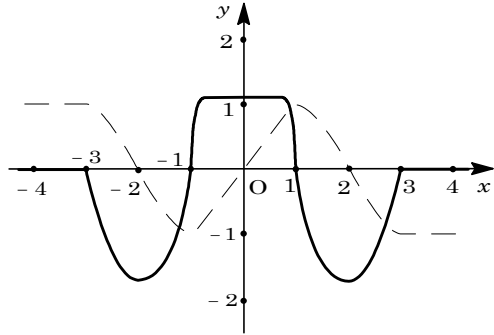
より少し大きい値として,  $0 < x < 1$  のとき,  $f'(x) = k$  となる。

$x = 1$  のとき,  $f'(1) = 0$

$1 < x < 2$  のとき  $f'(x)$  の値は単調に減少し,  $2 < x < 3$  のとき  $f'(x)$  の値は単調に増加する。

$x = 3$  のとき,  $f'(x) = 0$

したがって,  $y = f'(x)$  のグラフの概形は右図のようになる。



- (2)  $f(-x) = -f(x)$  より,  $\int_0^x f(-t) dt = -\int_0^x f(t) dt$  となり,  $-t = u$  とおくと,

$$\int_0^x f(-t) dt = \int_0^{-x} f(u) (-du) = -\int_0^{-x} f(u) du = -\int_0^{-x} f(t) dt$$

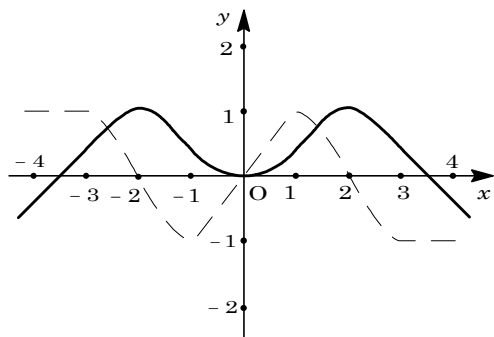
よって,  $\int_0^{-x} f(t) dt = \int_0^x f(t) dt$  となるので,  $y = \int_0^x f(t) dt$  のグラフは  $y$  軸に関して対称となり, 以下,  $x > 0$  で考える。

さて,  $F(x) = \int_0^x f(t) dt$  は, 区間  $[0, x]$  において  $y = f(x)$  と  $x$  軸にはさまれた領域の符号つき面積を表すので,  $k$  を 1 より少し大きい値として,  $0 < x < 1$  のとき,  $F(x) = \frac{k}{2} x^2$  となる。

$1 < x < 2$  のとき  $F(x)$  の値は単調に増加し,  $2 < x < 3$  のとき  $F(x)$  の値は単調に減少し,  $F(3) = F(1)$  となる。

$x = 3$  のとき,  $F(x)$  は傾き  $-1$  の直線となる。

したがって,  $y = \int_0^x f(t) dt$  のグラフの概形は右図のようになる。



### [ 解 説 ]

定性的にグラフを書く問題です。ところで, そのポイント説明は, この程度で十分なのでしょうか。